

デイサービスセンター さくら  
指定地域密着型通所介護事業・第1号通所事業 運営規定

(事業の目的)

第1条 社会福祉法人横手福祉会が設置するデイサービスセンターさくら（以下「事業所」という。）において実施する指定地域密着型通所介護事業及び指定第1号通所事業（以下「事業」という。）の適正な運営を確保するために必要な人員及び運営管理に関する事項を定め、事業所の生活相談員及び看護職員、介護職員、機能訓練指導員（以下「従事者」という。）が、要介護者、要支援者又は事業対象者（以下「要介護者等」という。）の利用者に対し、適切な指定地域密着型通所介護及び第1号通所事業を提供することを目的とする。

(運営の方針)

- 第2条 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業においては、要介護者等の利用者の心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、さらに利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るために、必要な日常生活の世話又は支援、機能訓練等の介護その他必要な援助を行う。
- 2 利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるものとする。
  - 3 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業においては、利用者の心身状態等の軽減又は悪化防止、介護予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行うものとする。
  - 4 市町村、居宅介護支援事業者、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、他の地域密着型サービス事業者又は居宅サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。
  - 5 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるものとする。
  - 6 事業所は、指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供の修了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、居宅介護支援事業者や介護予防支援事業者等への情報の提供を行う。

(事業所の名称等)

第3条 事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- (1) 名 称 デイサービスセンターさくら
- (2) 所在地 秋田県横手市駅前町14番地9号

(実施主体)

第4条 事業の実施主体は、社会福祉法人横手福祉会とする。

(職員の職種、員数及び職務内容)

第5条 従業者の職種、員数及び職務内容は、次のとおりとする。

- (1) 管理者 1名 (常勤、生活相談員兼務)  
事業所の従業者の管理及び業務の管理を一元的に行う。
- (2) 生活相談員 2名 (兼務)  
利用の申し込みに係る調整、利用者の生活の向上を図るため適切な相談・援助等を行い、また他の従業者と協力して地域密着型通所介護計画 (通所型サービス個別計画) の作成等を行う。
- (3) 介護職員 3名以上  
利用者の心身の状況に応じ、必要な介護を行う。
- (4) 看護職員 1名以上  
利用者の健康状態の確認及び介護を行う。
- (5) 機能訓練指導員 1名以上  
機能訓練計画の策定及び日常生活を営むのに必要な機能の減退防止するための訓練指導、助言を行う。

(営業日及び営業時間)

第6条 事業所の営業日及び営業時間は、次のとおりとする。

- (1) 営業日 月曜日から土曜日  
ただし、12月31日から1月2日までを除く。
- (2) 営業時間 9:00～16:00

(利用定員)

第7条 事業所の利用者の定員は、下記のとおりとする。

- (1) 併設型 18 名
- (2) サービス提供時間帯 9 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

(指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の内容)

第8条 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の内容は、次に掲げるもののうち必要と認められるサービスを行うものとする。

- (1) 身体介護サービス
- (2) 入浴サービス
- (3) 食事サービス
- (4) 機能訓練・レクリエーション
- (5) 健康チェック
- (6) 送迎に関すること
- (7) 相談・助言に関すること

(利用料等)

第9条 指定地域密着型通所介護等を提供した場合の利用料の額は、厚生労働大臣又は横手市が定める基準によるものとし、当該指定地域密着型通所介護が法定代理受領サービスであるときは、利用者毎の負担割合証に記載された割合に応じた額とする。

- 2 次条に定める通常の事業の実施地域を超えて送迎を行った場合は、実費を徴収する。
- 3 その他、指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用については実費を徴収する。
- 4 前各項の利用料等の支払いを受けたときは、利用料とその他の費用（個別の費用とに区分）について記載した領収書を交付する。
- 5 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供の開始に際し、あらかじめ利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用に関し事前に文章で説明した上で、その内容及び支払いに同意する旨の文章に署名を受けるものとする。
- 6 費用を変更する場合には、あらかじめ、前項と同様に利用者又はその家族に対し事前に文章で説明した上で、支払いに同意する旨の文章に署名を受けることとする。
- 7 法定代理受領サービスに該当しない指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業に係る利用料の支払いを受けた場合は、指定した指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス

提供証明書を利用者に対して交付する。

(通常の事業の実施地域)

第10条 通常の事業の実施地域は横手市（旧横手市、平鹿町、山内村、大雄村）とする。

(衛生管理等)

第11条 利用者の使用する施設、食器その他の整備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努めるとともに、衛生上必要な措置を講ずるものとする。

2 事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

(1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）をおおむね6月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) 事業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施する。

(サービス利用にあたっての留意事項)

第12条 利用者は指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供を受ける際には、医師の診断や日常生活上の留意事項、利用当日の健康状態等を従業者に連絡し、心身の状況に応じたサービスの提供を受けるよう留意する。

(緊急時等における対応方法)

第13条 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供を行っているときに利用者に病状の急変その他緊急事態が生じたときは、速やかに主治医に連絡する等の措置を講ずるとともに、管理者に報告する。主治医への連絡が困難な場合は、緊急搬送等の必要な措置を講ずるものとする。

2 利用者に対する指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供により事故が発生した場合は、市町村、当該利用者の家族、当該利用者に係る居宅介護支援事業者等に連絡するとともに、必要な措置を講ずるものとする。

- 3 事業所は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置の状況について記録するものとする。
- 4 利用者に対する指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供により賠償すべき事故が発生した場合には、損害賠償を速やかに行うものとする。

(非常災害対策)

- 第14条 非常災害に備えて、消防計画、風水害、地震等の災害に対処するための計画を作成し、防火管理者または火気・消防等についての責任者を定め、年2回定期的に避難、救出その他必要な訓練を行うものとする。
- 2 事業所は、前項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めるものとする。

(苦情処理)

- 第15条 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供に係る利用者及び家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、必要な措置を講ずるものとする。
- 2 事業所は、提供した指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業に関し、法第23条の規定により市町村が行う文章その他の物件若しくは照会に応じ、及び市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。
  - 3 事業所は提供した指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

(個人情報の保護)

- 第16条 事業所は、利用者又は家族の個人情報について「個人情報の保護に関する法律」及び厚生労働省が策定した「医療・介護関係従業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」を遵守し適切な取扱いに努めるものとする。
- 2 事業者が得た利用者又は家族の個人情報については、事業者での介護サービスの提供以外の目的では原則的に利用しないものとし、外部への情報提供については利用者又は家族の同意をあらかじめ書面により得るものとする。

(虐待防止に関する事項)

第17条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。

- (1) 虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る
  - (2) 虐待防止のための指針の整備
  - (3) 虐待を防止するための定期的な研修の実施
  - (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者の設置
- 2 事業所は、サービス提供中に当該事業所従事者又は養護者（利用者の家族等高齢者を現に養護する者）による虐待を受けたと思われる利用者を発見した場合は、速やかに、これを市町村に通報するものとする。

(地域との連携など)

第18条 事業所は、その運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等、地域との交流に努める。

- 2 指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、本事業所が所在する圏域の地域包括支援センターの職員、地域密着型通所介護について知見を有する者等により構成される協議会（以下この項において「運営推進会議」という。）を設置し、おおむね6月に1回以上運営推進会議に対し活動状況を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに、運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設ける。
- 3 事業所は、前項の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに当該記録を公表するものとする。
- 4 事業所は、指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の所在する建物と同一の建物に居住する利用者以外の者に対してもサービスを提供するよう努めるものとする。

第19条 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。

- 2 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に実施するものとする。
- 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

(その他運営に関する留意事項)

第20条 事業所は、全ての従業者（看護師、准看護師、看護福祉士、介護支援専門員介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講ずるものとする。また従業者の資質向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、業務の執行体制についても検証、整備する。

(1) 採用時研修 採用後1カ月以内

(2) 継続研修 年6回

- 2 従業者は、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持する。
- 3 従業者であった者に、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持させるため、従業者でなくなった後においてもこれらの秘密を保持するべき旨を、従業者との雇用契約の内容とする。
- 4 事業所は、適切な指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化の必要な措置を講ずるものとする。
- 5 事業所は、指定地域密着型通所介護及び指定第1号通所事業に関する記録を整備しそのサービスを提供した日から最低5年間は保存するものとする。
- 6 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は、社会福祉法人横手福祉会と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附則

この規程は、令和3年 4月1日から施行する。